

社会－４（歴史的分野） 時代の区分やその移り変わりに気付く学習の事例
 【学習活動の概要】

1 単元名 歴史のとらえ方 ～年代の表し方と時代区分を理解しよう～		
2 単元の目標 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。		
3 評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・我が国の歴史の大きな流れに対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。 【社会的な思考・判断・表現】 ・我が国の歴史の転換期の出来事やその時期の歴史上の人物が果たした役割などについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【資料活用の技能】 ・我が国の歴史上の人物や出来事などに関する様々な資料を収集し、時代の区分やその移り変わりに関する情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。 【社会的事象についての知識・理解】 ・我が国の時代の区分やその移り変わりに気付くとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解し、その知識を身に付けている。		
4 単元 本単元は、中学校の歴史学習の導入として実施する。小学校で人物の働きや代表的な文化遺産を中心に我が国の主な歴史的な事象について興味・関心をもって調べ、理解を深めてきたことを踏まえ、その内容を活用する学習活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるように指導する。小学校での学習を生徒が振り返ることができるように、中学校の歴史的分野の教科書だけでなく、小学校第6学年の教科書を活用させることも考えられる。		
5 主な学習活動 (1)単元の指導計画（全3時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	○小学校での学習を踏まえ、歴史上の人物が果たした役割から、その人物が現代で言えばどのような「職業」の働きをしていたと考えられるか、話し合う。 ○聖徳太子、豊臣秀吉、徳川家康、坂本龍馬の4人を歴史上で果たした役割などに基づいて自由に二つのグループに分け、それぞれのグループの特徴を説明したり、意見交換したりする。(1)	・政治や文化など、歴史上の人物が果たした役割を時代ごとに分類し、表にまとめて整理する方法を身に付けさせる。 ・分類の根拠となる各グループの人物の共通点、二つのグループの相違点を述べさせる。 ・同じ人物を調べた生徒間で意見交換させたり、異なる人物を調べた生徒からインタビュー形式で聞き取って記録をとらせたりする。
第二次	○新しい政治の始まりや文化の発展に関わった歴史上の人物とその役割、当時の出来事などを調べ、時代の移り変わりに気付くとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解して、歴史の流れを図にまとめ、発表し合う。(2:本時2/2)	
(2)本時の学習		
①目標 天皇や貴族の政治の始まり、武家政権の成立、織田・豊臣による統一事業と江戸幕府の成立、明治維新による近代国家の基礎の整備、第二次世界大戦後の民主的な国家の建設について、歴史上の人物が果たした役割などを基に説明し、古代・中世・近世・近代・現代という時代区分やその移り変わりに気付く。あわせて大化、明治などの元号や奈良・平安・鎌倉・室町・江戸などの時代名についての基本的な内容を理解し、その知識を身に付ける。		
②本時の展開 ○新しい政治の始まりに関わった歴史上の人物について、調べた内容を基に意見交換する。 ○年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解し、その知識を身に付ける。 ○我が国の歴史の大きな流れを図にまとめ、それを基に発表し合う。		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

新学習指導要領社会科歴史的分野の内容の「(1) 歴史のとらえ方」のアにおいて、本単元の目標が内容として示されている。また、内容の取扱いの(1)のイにおいて、「歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること。」と示されている。

本指導事例のねらいは、小学校で学習した内容を活用させ、意見交換、表や図にまとめるなどの言語活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、中学校で歴史を学んでいく意欲を高めることにある。我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、それを自分の言葉で表現できるようになることが、中学校の歴史学習の目標であることも分かってほしい。

【言語活動の充実の工夫】

○歴史上の人物を分類した根拠を発表し合う場の設定

第一次では、多くの生徒にとってなじみ深い歴史上の人物をその働きなどから二つのグループに分類させ、自分なりの根拠を発表し合い、さまざまな解釈にふれて視野を広げられるよう工夫した。

「聖徳太子、坂本龍馬」・「豊臣秀吉、徳川家康」という分類が最も多く見られたが、その根拠はさまざまであった。前者・後者の特徴としては、「話し合いを重視して世の中を変えようとした」・「戦いに勝って世の中を自分の力で変えようとした」、「天皇を尊重するようになった時代の人物」・「武力で勢力を伸ばそうとする弱肉強食の時代の人物」などの意見があった。

「聖徳太子・豊臣秀吉・徳川家康」と「坂本龍馬」という分類の根拠は、「摂政や関白、征夷大將軍という高い地位で政治を動かした」・「高い地位にはつかず、間接的に世の中の大きな変化に関わった」というものや、「当時の日本は、中国や朝鮮とのつながりが強かった」・「当時の日本は、欧米各国から大きな影響を受けようとしていた」などであった。

戦争と平和、新たな制度や法令、外国との関わりなどに着目する生徒が多く見られ、小学校と中学校の学習の連続性を意識させることもできた。また、第二次で「時代の移り変わり」を学習するための動機付けにもなった。

○「歴史の流れ」を構想したイラストの活用による表現活動の充実

時代の移り変わりに気付き、歴史の大きな流れを生徒が容易にイメージできるように、右図のイラストを考案した。

国家づくりの段階で目標とする姿が海外にあった「古代」と「近代」が「目」の位置に、武家政権がおかれた「中世」「近世」を「鼻の穴」の位置に、国の成立以前の「縄文時代」を「右耳」の位置に、「現代」を「左耳」の位置に当てはめ、さらに政治の中心地や元号を基に示される「奈良」「平安」「鎌倉」から「平成」までの時代名を記入させて、時代区分の基本的な内容を理解させるとともに、大きな時代区分の転換期などに起こった歴史上の出来事を考えさせ、イラストに自由に書き込ませた。

右の耳と目の間の印は、弥生時代・古墳時代に当たる。生徒からは「大和朝廷によって国家が統一されるまでの時期」という解釈や、「天皇を中心とする政治が確立する前の時期」という解釈などが示され、聖徳太子と中大兄皇子の時代の政治の違いを指摘した発表を基に、大化の改新以後を古代と考えるか、律令政治が確立した奈良時代以後を古代と考えるかで意見が分かれる場面もあった。

時代の転換期には、必ず新しい制度や法令の成立があったことに気付き、大宝律令、御成敗式目、武家諸法度、大日本帝国憲法、日本国憲法をその代表例として指摘した生徒もいた。さらに、髪型で新しい文化の発展を表現したり、元寇や黒船の来航、日清・日露戦争を新たな記号で示したりする生徒もおり、表現の豊かさが発揮され、歴史を学ぶ意欲を高めるのに効果的な学習となった。

